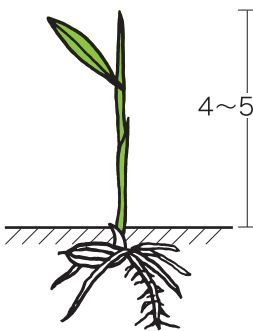
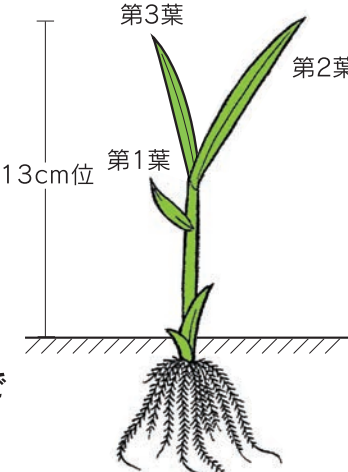


筑前あさくらJA米

1.種子更新率100% 2.食味向上(タンパク質含有率6.8%以下) 3.仕上げ水分14.5~15.0% 4.作付比率の厳守

1.育苗基準

(老化苗・病害予防のため**23日苗**とする)

		主 な 作 業																													
播種日よりの日数	育苗準備期間	◎育苗箱は10a当たり20箱準備する。(ほ場未整備田では必要に応じて増やす。)																													
		◎栽培履歴での適正な証明・品種固有の特性維持・病害虫予防のため、毎年 全量種子更新 を行う。																													
		◎種子は10a当たり 2.5～3kg 準備する。																													
		◎土は10a当たり、あさくら培土 4袋 または山土等100kg(5斗)を準備する。 山土には、70箱分の床土に育苗化成1kg(1袋)の割合で混和する。 山土2に対して籾殻くん炭1の割合で混和する。																													
		◎育苗期の 病害予防 のため、必ず 薬液 が 温湯 による 消毒 を行う。 【温湯消毒】手法についてはJA営農センターか普及指導センターへ尋ねる。																													
-7	育苗準備期間	【薬液消毒】																													
		<table><tr><th>種もみ(乾もみ)</th><th>水</th><th>浸漬時間</th><th>農薬名</th><th>使用量(希釈倍率)</th><th>対象病害虫</th></tr><tr><td>5kg</td><td>10ℓ</td><td>24時間</td><td>テクリードCフロアブル</td><td>50ml(200倍)</td><td>いもち病・ばか苗病</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>スミチオン乳剤</td><td>10ml(1,000倍)</td><td>イネシガレンセンチュウ</td></tr><tr><td>いもち病対策</td><td colspan="5">上記にベンレート水和剤を20g(500倍)混用し、薬液消毒後、風乾し、浸種する。</td></tr></table>						種もみ(乾もみ)	水	浸漬時間	農薬名	使用量(希釈倍率)	対象病害虫	5kg	10ℓ	24時間	テクリードCフロアブル	50ml(200倍)	いもち病・ばか苗病				スミチオン乳剤	10ml(1,000倍)	イネシガレンセンチュウ	いもち病対策	上記にベンレート水和剤を20g(500倍)混用し、薬液消毒後、風乾し、浸種する。				
		種もみ(乾もみ)	水	浸漬時間	農薬名	使用量(希釈倍率)	対象病害虫																								
		5kg	10ℓ	24時間	テクリードCフロアブル	50ml(200倍)	いもち病・ばか苗病																								
					スミチオン乳剤	10ml(1,000倍)	イネシガレンセンチュウ																								
いもち病対策	上記にベンレート水和剤を20g(500倍)混用し、薬液消毒後、風乾し、浸種する。																														
◎芽立ちを均一な状態に揃えるため、 浸種日数を充分 にとる。																															
◎種子は播種前日の夕方にあげる。(ハト胸から1mm程度) → 																															
【は種に適した催芽状態】																															
0	播種	◎播種前に床土に充分かん水後、苗立枯病予防のため ナエファインフロアブル1000倍液を1箱500mlかん注する 。																													
		◎ 播種量は1箱 催芽初で130g(1.1合) を基準とする。(100箱分:水50ℓにナエファインフロアブル50ml)																													
		◎覆土は充分に行う。(種子が隠れる程度)																													
		◎ 苗箱は日当たりが良く風通しの良い場所に並べ 、被覆資材で被覆する。																													
		◎被覆期間中のかん水は、土が乾いたら1日1回被覆資材をはずして行う。																													
1	出芽・緑化期	◎ 徒長防止 のため、 苗の長さが4～5cm位になったら被覆資材を除去する 。 → 																													
		元気つくし・にこまるは苗が伸びやすいので他の品種より1～2日早く除去する 。																													
		◎かん水は、覆土が乾いてから行う。 根張りを良くし、徒長を防止するため、夕方のかん水は極力避ける。(弁当肥)																													
		◎弁当肥を施す。(田植前4～5日) 日中の高温・乾燥時には施さない。(葉焼防止)																													
		水50ℓにポット肥料350gを溶かし施用する。(100箱分)																													
8	硬 化 期	 育苗日数の長い老化苗で苗いもち病がやすい																													
		※箱施薬剤は、確実に1箱当たり50g施用しないと防除効果が劣る。																													
		※栽植密度は、60株/坪。(目安 19cm×30cm)																													
		※ジャンボタニシ発生田では浅水管理を行い、スクミノン等を散布する。																													
		【目標とする苗の姿】																													
23	田 植																														

水稻品種特性表(6月20日田植)

品 種 名	出 穂 期	成 熟 期	耐 病 性		耐倒伏性	栽培上の留意点
			いもち病	白葉枯病		
夢 つ く し	8/15	9/20	弱	やや弱	やや強	いもち病に著しく弱いので適期防除に努める。
元 気 つ く し	8/19	9/27	弱	中	やや弱	
ヒ ノ ヒ カ リ	8/26	10/6	やや弱	やや弱	やや弱	刈り遅れると著しく品質が低下するので、適期収穫に努める。
に こ ま る	8/31	10/17	やや弱	やや弱	やや弱	葉葉が柔らかいため、中干しや間断灌水を徹底する。いもち病に弱いので注意する。

農薬、肥料、資材の注文はJAへ!

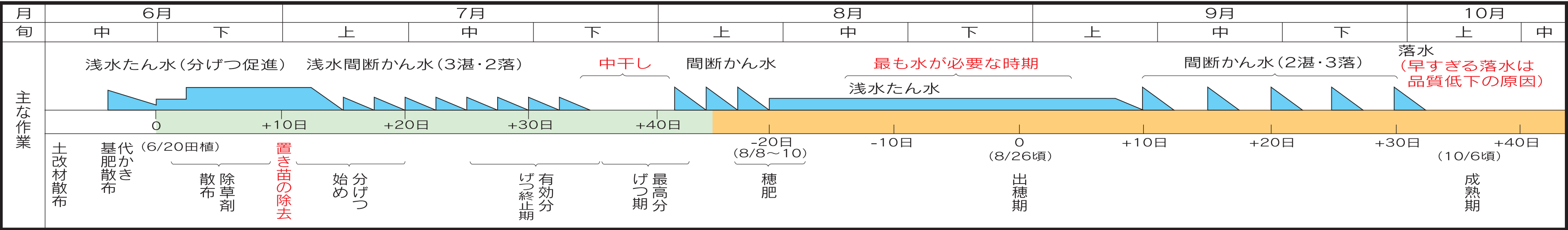
「令和6年度版病害虫・雑草防除の手引き」 <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/bojonotebiki.html>

注)農薬は令和5年12月28日現在の登録状況に基づき、記載しています。

令和6年産 稲作ごよみ

2.水管理

＜ヒノヒカリの水管理例(6月20日田植)＞ ※夢つくし・元気つくしでは中干しの開始時期が早くなる。



以下の時期を除き原則として生育期間を通して間断かん水を行う。
●田植後10日~2週間は活着促進とジャンボタニシ予防のため浅水たん水を行う。 ●田植後35日前後から中干しを開始する。(中干し期間は7日~10日間で強すぎないようにし、その後は徐々に間断かん水を行う。)
●幼穂形成期~出穂~開花期は水が最も必要な時期なので浅水たん水を行う。(幼穂形成期:出穂の20日前頃) ●台風接近時は深水にして風によるしおれを防ぐ。 ●充実を良くするため落水は収穫前7~10日に行う。

3.土づくり対策

資材の分類	資材名	施用量(10a当たり)	備考		
有機質	万能堆肥	2t	・腐植の増加 ・土壌通気性、保水性の向上 ・耕起前に確安10kg/10aを施用(麦わらの分解促進) ・間断かん水の励行(根痛み防止)		
	麦わら	全量			
けい酸質	けい酸加里	40~60kg	・カリの供給		・登熟向上 ・倒伏防止 ・病害虫予防
	ミネラルG	200kg	・微量要素の供給	・けい酸の供給	
	ケイ鉄		・鉄分の供給		

4.施肥基準

施肥の留意点
・基肥一発肥料は、省力化を目的とした施肥例のため、年次により収量が減少することがある。
原則として追肥、穂肥は施用しない。
・側条施肥の場合は、施肥量を5kg/10a減肥する。

品 種	肥料名	施肥量(10a当たり)	成分(%)				成分量(10a当たりkg)
			N・P・K	N	P	K	
夢つくし	夢ごころ一発	40kg	20・10・10	8.0	4.0	4.0	
元気つくし ヒノヒカリ にこまる	元ヒ一発1号	40~45kg	20・10・10	8.0~9.0	4.0~4.5	4.0~4.5	

品 種	肥料名	施肥量(10a当たり)	成分(%)				成分量(10a当たりkg)
			N・P・K	N	P	K	
夢つくし	ちくごのめくみ444	基肥 40kg	14・14・14	5.6	5.6	5.6	
	きばる穂肥エムコート	穂肥 15kg	20・0・16	3.0	0	2.4	
元気つくし ヒノヒカリ にこまる	ちくごのめくみ444	基肥 40kg	14・14・14	5.6	5.6	5.6	
	きばる穂肥エムコート	穂肥 15~20kg	20・0・16	3.0~4.0	0	2.4~3.2	

6.病害虫防除基準

(箱施薬剤を使用することを前提とした構成となっているので、箱施薬剤を使用していない場合は、本田防除の効果が不十分となることがある。)

品種		夢つくし・元気つくし			品種		ヒノヒカリ・にこまる					
体系	時期	粉 剤		液 剤(展着剤混用)	ヘ リ 防 除		体系	時期	粉 剤	液 剤(展着剤混用)	ヘ リ 防 除	
箱施薬												
防人箱粒剤 50g/箱 (は種時～田植当日) 又は プーンゼクテラ箱粒剤 50g/箱 (は種時～田植当日) (いもち病・白葉枯病・もみ枯細菌病・ウンカ・コブノメイガ) ※散布後は薬剤が土の表面に落ちるようにかん水する												
8月	上旬	・いもち病の補正防除・・・・・・出穂30日前～5日前にコラトップジャンボPを10～13個/10a散布。										
	中下旬	病害虫の発生にあわせて ・ダブルカットバリダスタークル粉剤3DL 4kg/10a (いもち病・紋枯病・カメムシ・ウンカ) (出穂・開花期は使用を避ける) ・ロムダンゾル (コブノメイガ) 1000倍 ・ノンプラスバリダフロアブル 1000倍 (いもち病・紋枯病) ・スタークル液剤10 (カメムシ・ウンカ) 1000倍 (出穂・開花期は使用を避ける) ・ロムダンエアー (コブノメイガ) ・ノンプラスバリダフロアブル (いもち病・紋枯病) ・スタークル液剤10 (カメムシ・ウンカ) (出穂・開花期は使用を避ける)										
		・ウンカ・カメムシの補正防除・・・・・・スタークル液剤10 1000倍 スタークル粉剤DL 3kg/10a スタークル豆つぶ 250g/10a										
9月	上旬	     										
		・ウンカ・カメムシの補正防除・・・・・・スタークル液剤10 1000倍 スタークル粉剤DL 3kg/10a スタークル豆つぶ 250g/10a (飛散防止対策)・作物別、品種別の団地化 ・適正な散布圧力、ドリフト低減ノズルの使用 ・風の無い時に農薬散布 ・畦畔から圃場の内側に向かっての散布										

※防除をする際は、たん水状態で散布することで効果が安定します。
※粒剤の使用にあたっては営農センター・普及指導センターへお尋ね下さい。(粒剤は早い時期の予防散布用なので注意)

米は全量JAへ!!-JA米基準-

- 銘柄が確認できた種子
- 登録検査機関で受検した米
- 栽培履歴記帳が確認された米
- 残留農薬分析を実施した地域の米

筑前あさくら農業協同組合 朝倉地域担い手・産地育成協議会

農薬適正使用スローガン

- 1 散布前に必ず農薬ラベルを確認!
- 2 散布時に、近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底!
- 3 水田では、農薬散布後の止水期間(7日間)を遵守!
- 4 散布後に、必ず散布器具(タンク、ホース等)を洗浄!
- 5 防除履歴は、正確に記帳!